

活動成果報告書

令和3年度（第25回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

安心できる場所で気軽にプチ相談

～出張型育児相談 i n 葉山キッズランド～

グループ名称・氏名(グループの場合は代表者名)

富里市 健康福祉部 健康推進課 母子保健班

代表者：伊藤 宏美

勤務先：富里市役所

所 属：健康福祉部 健康推進課 母子保健班

所在地：〒286-0292

千葉県富里市七栄652-1

TEL：0476-93-4121

FAX：0746-93-2422



◇活動方針

本市では、令和2年度に子育て世代包括支援センターを開設しました。また、市内2か所に子育て支援センター（葉山キッズランド、向台子育て支援センター）も開設しており、双方で連携を図っていくことが求められています。その取り組みの1つとして、令和2年度からプチ相談（出張型の育児相談）を葉山キッズランドで実施しています。

<目的>

本市で子育てをする家庭が、「あそこに行けば相談できる」と気軽に思ってもらえるような、身近な存在となり、子育て家庭との切れ目のない繋がりを目的としています。

◇活動内容とその成果

内容：妊娠・出産・育児に関する相談（予約制）

場所：葉山キッズランド



従事者：保健師、助産師、歯科衛生士、管理栄養士、保育士

対象者：市内在住の妊婦、0～5歳児とその保護者

周知方法：広報とみさと、葉山キッズランドのホームページやSNS、チラシ、赤ちゃん訪問、乳幼児健診、各種教室

活動成果報告書

配布チラシ：子育て支援センターだよりに、プチ相談の案内を記載しています。



<実施回数>

① 令和2年度：12回 ② 令和3年度（4月～1月）：20回

<相談組数（延べ）>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R2年度	中止	中止	中止	中止	14	16	11	11	12	7	中止	中止	71組
R3年度	5	6	4	3	5	12	7	8	13	7	—	—	70組

令和4年1月27日現在

<相談内容>

保健師

1.発育 2.睡眠 3.言葉の増やし方 4.生活リズム 5.トイレトレーニング 6.産後の体調
7.運動面（ハイハイが遅い気がする、一人で歩かないなど） 8.育児負担 9.事故予防
10.乳幼児健診結果の説明 11.イヤイヤ期の対応 12.寝かしつけ 13.社会資源（預け先） など

助産師

1.切迫早産の予防 2.分娩のイメージトレーニング 3.産後の体調 4.産後子宮脱 5.断乳方法
6.哺乳瓶をやめる時期 7.赤ちゃんの耳のケア 8.育児ストレス 9.赤ちゃんの運動発達 など

管理栄養士

1.離乳食の進め方 2.偏食 3.離乳食の形態 4.固さ 5.間食（量、内容） 6.離乳食の量、種類
7.幼児の食事量 8.授乳（量、時間） 9.食物アレルギー 10.食事時間 11.水分補給 など

活動成果報告書

歯科衛生士

- 1.乳歯の萌出時期
- 2.歯列不正
- 3.仕上げ磨き(方法・回数等)
- 4.歯石着色
5. 習癖
- 6.歯みがき剤
7. 歯みがきを始める時期
- 8.口輪筋マッサージの方法
- 9.かかりつけ歯科医
- 10.歯面着色 など

<相談の様子>



<考察>

相談体制について

相談当日は、葉山キッズランドから事前に申込者と相談内容の連絡を受けて臨んでいます。事前情報があることで、以前の健康推進課での相談内容等を確認してから対応することができ、当日の相談をスムーズに行うことができています。

また、赤ちゃん訪問時に、子育て支援センターの紹介を受けて来所している方もおり、訪問時の助産師と再会し、その後の様子を報告する場面もみられるなど、切れ目のない支援につながっていると思われま

実施場所について

健診の場では、相談しにくい内容でも、子育て支援センターであれば気軽に相談できると話す保護者もいます。親子で遊べる場所で相談をすることで、自然な児の遊びや保護者の関わり方を伺いながら相談対応することができています。

子育て支援センターとの連携について

プチ相談以外にも、困っている家庭があった場合には子育て支援センターから連絡を受け、随時の対応ができるようになり、関係機関との連携が密になったと感じています。

◇今後の計画

出張型の育児相談は、親子が普段遊んでいる場所で気軽に相談ができるメリットがあります。

プチ相談では、保護者が相談に集中できるよう、葉山キッズランドの職員がお子さんと一緒に遊び、保護者が安心して相談できる体制を整えてお待ちしています。

コロナ禍で外出先が限られる状況の中、子育て家庭が安心して過ごせる場所で相談できる体制は今後も継続していきたいと考えています。新型コロナウイルス感染症により、対象者への関わり方は対面からオンラインまで幅が広がっていますが、今後も様々な方法で市民に切れ目のない支援を提供し続けていきたいです。